

猪の瀬戸の自然をどう守るか



猪の瀬戸湿原は、車の往来が激しい県道と市道に寸断された位置にありながら、湿潤な湿原部と乾燥性の草原部と豊かな半湿潤性の自然林部とに分かれて湿原を維持しています。

つまり、ぎりぎりの状態ではありますが、湿原状態が続いているというわけです。

しかし、今後もこの状態が維持できるかどうかは、私たちの行動次第ではないでしょうか。

そこで、今から何ができるかを考えてみましょう。

守ろう 猪の瀬戸の自然を

公園を利用するわたしたちは…

公園道路である県道や市道の沿道には、空き缶やビニール袋などが散乱しています。おそらく車からの投げ捨てによるものと思われますが、たとえ道路を通過するだけの利用者であってもそのような行為が許されるはずはありません。

ゴミが湿地の生命ともいえる水を汚すようなことがあれば、取り返しのつかないことにもなりかねません。そこで次の3点について提案したいと思います。

公園の利用

① 捨てない

ゴミは捨てずに持ち帰る。

② 入らない

湿地に立ち入らない。

③ 汚さない

生活排水や不法投棄をしない。



地

森林の大切さとは…

猪の瀬戸湿原の保全を考えるうえで、集水域である周辺部の森林の役割を見逃すわけにはいきません。森林は、湿地に一定量の水を絶えず供給する貯水タンクの役割を果たしています。

そこで、次のことを考えてみました。



土地の利用

- ① 保水能力を低下させるような森林の伐採を慎む。
- ② 植林を行う場合は、保水力が高く、災害にも強い落葉広葉樹が望ましい。
- ③ 保水力の低下や水系を無視した無秩序な地形の改変を避ける。

32

地域の活動

地域の活動は…

平成7年6月に第1回猪の瀬戸湿原環境フォーラムが行われ、その中で野焼の必要性の有無について議論がなされましたが、このように、保全についてのいろいろな議論を各方面で行い、今後の方向性について地域の意見を交換することも大切だと思います。そこで、次の活動を行ってはいかがでしょうか。

- ① 湿地の保全に関する学習会を開催し、その重要性をより多くの人に認識してもらう。
- ② 野焼の必要性など保全策について、地域の意見集約をする。
- ③ 現道の拡幅工事などの公共工事に伴う水系の遮断防止を働きかける。

